

● 学会からのメッセージ ●

2008年12月、廃棄物学会は一般社団法人となり、名称もまた、廃棄物資源循環学会と変わりました。廃棄物資源循環学会では、循環型社会をめざし、学会員以外の方々へ「循環と暮らし」を発行することになりました。本号が創刊号となります。これまで市民編集号「C&G」をお読みいただいていた皆様には、厚くお礼申し上げますと共に、今後「循環と暮らし」もご活用・ご支援いただきますようお願いいたします。

当学会の学会誌（廃棄物資源循環学会誌）では、年6回発行のうち1号を市民編集号として特集を組むことになりました。どちらかという学術的な論文です。この内容を会員以外の方々へ、より分かりやすくまとめ直したものを学会PR版「循環と暮らし」として世に出すこととなったものです。

学会が誕生したのは21年前、1990年です。ここ半世紀、世の流れは急激に変化してきました。戦後の経済の高度成長期に起こった公害問題から、有害物質、気候変動による地球環境問題、そして循環型社会また低炭素化社会への道と、それらは持続可能な社会をめざす人類が、一步一步、歩んできた理解の歴史でもあります。経済社会・消費社会の下流に位置する廃棄物問題を解決するために考えねばならないことが、一步上流へ、二歩上流へ、また一步ずつ広い世界へと視点変化してきています。私たちの生活、生活に必要な製品、それらが要らなくなったときに発生する廃棄物、現在、資源戦争が激しくなっているなか、近い将来これらの製品も廃棄物も変化してゆくでしょう。生活者の立場で、暮らしの中で起こっている変化を体感し、これでよいのかという疑問をもち、原因を調べ、そして解決のための議論をしてゆくために、必要な情報を廃棄物資源循環学会が提供する、これが「循環と暮らし」の使命です。創刊号では「住まい」を取り上げています。「ごみと地球温暖化」「ごみと教育」「めぐるごみ」「ごみと食」といったテーマの流れを継承しています。

時代とともに変わる生活。廃棄物もまた然り。本当にエコな生活とは？本当に幸せな生活とは？本当に満足する生活とは？未来の子供たちへ残したい環境を作るには？ 廃棄物資源循環学会では学者・企業・自治体と共に、自らも含め、生活する市民が「循環と暮らし」を題材にして、議論を深めてゆけるよう期待しております。



Japan Society of Material Cycles and Waste Management

